

平成21年度強化事業

FID 日本男子代表チーム・FID 日本女子代表チーム 第1次強化合宿 概要

1. 事業名

平成21年度 FID 日本男子代表チーム・FID 日本女子代表チーム 第1次強化合宿

2. 実施日

平成21年5月2日（土）～5月5日（祝）

3. 会 場

神奈川県立神奈川総合産業高等学校体育館

神奈川県立相模大野高等学校体育館

神奈川県立麻溝台高等学校体育館

4. 参加者

スタッフ12名・男子選手8名・女子選手9名

5. 協 力

SSC（相模原スポーツコミュニティー）

神奈川県立相模大野高等学校男子バスケットボール部

神奈川県立相模大野高等学校女子バスケットボール部

神奈川県立麻溝台高等学校男子バスケットボール部

神奈川県立麻溝台高等学校女子バスケットボール部

ー平成21年度 FID 日本代表チーム第1次強化合宿レポートー

5月の大型連休を利用し、今年度のFID日本男子代表チーム、FID日本女子代表チームの第1次強化合宿が実施されました。

■ 5月2日（土）ー初日ー

初日は正午に集合。午後1時30分からスタッフミーティング、午後2時から全体ミーティングが行われ、選手に対し各スタッフから今合宿の目的等についての説明がありました。特に男子の小川ヘッドコーチからは今回のグローバル競技大会に向けて「失敗を恐れずに挑戦する気持ちを持ち続け世界と戦う」また、「やって貰って当たり前の発想は完全に頭の中から捨て、常に謙虚であり感謝の気持ちを持つ」という話があり、選手も真剣に耳を傾けながら聞いていました。

昨年度までの日本代表チームの活動はセレクション形式で全ての選手が候補選手という扱いでした。グローバル競技大会の派遣を機に選手の最終選考が行われ、男子選手10名、女子選手10名が晴れてFID日本代表選手として選考されました。

全体でのコンディショニング調整の後、男女に分かれ早速実戦練習に入りました。互いに緊張感を持ちながら選手はメニューに励み、順調な滑り出しを見せました。全国から選手をピックアップしている為、久しぶりの再開に笑顔が多かったのが印象的でした。

■ 5月3日（祝）ー2日目ー

午前中は神奈川県立神奈川総合産業高等学校の体育館を借用し、練習を行いました。男子は今合宿にボランティアとしてフルに参加をして頂いているSSC（相模原スポーツコミュニティー）のメンバーに実戦練習の相手をして頂き、オールコートを使いながらの激しいメニューとなりました。女子はハーフコートで分解練習を繰り返し行い、石毛ヘッドコーチを中心に衛藤コーチ、熊谷コーチの丁寧な指導が続きました。

午後は男女共に神奈川県立相模大野高等学校バスケットボール部、保護者会の方々の協力を得て、実戦練習（主にスクリメージ）を行いました。

男子については相手が変わると本来の実力を出し切ることが出来ない悪い習慣がコートの中に反映され、自分たちからリズムを崩してしまうことが多く、また自分たちで立て直す余裕もありませんでした。メンタルでの弱さが露呈され、キャプテンの斉藤芳樹選手は悔し涙を流していました。元FID日本代表チームの中川雄一郎選手が飛び入りで参加をし、何本かスクリメージに参加をしました。中川雄一郎選手は2006年の世界選手権に出場し、持前の高い運動能力と誰よりも負けないバスケットボールに対する真摯な姿勢が欧米チームのスタッフから高い評価を得ました。今回は諸事情によりグローバル競技大会には出場しませんが、「何よりも試合に出て自分が楽しむ」ということを身体で最大限にパフォ

一マンスをしてくれました。同じポジションである斉藤芳樹選手、高橋英人選手、野澤晴夫選手等は非常に勉強になったことと思います。

今回男子で非常に良い動きを見せているのが藤谷一史選手です。所属チームでのポジションからコンバートさせましたが、指導されている内容を自分なりに理解を示し、良くトライしています。

女子については、佐藤舞選手のセンターを軸に考えていますが、体力的な部分で課題が多く残るため、我謝友美選手や、畑口和選手を上手く組み合わせながら取り組むことにしました。今回はキャプテンである畠山真由美選手が体調不良のため不参加となりましたが、2006年世界選手権経験者と、新たなメンバーとのコミュニケーション面できくしゃくする場面が多く見られ、お互いの立場に立って分解練習をする必要が感じられました。夜のミーティングでは、マン・ツー・マンでの3線のヘルプとリカバリーの確認と、2-1-2のゾーンディフェンスでのポジショニングの確認をし、今日出来なかったことと明日やってみることを意思統一を図りました。

■ 5月4日（祝）－3日目－

昨日同様、午前中は神奈川県立神奈川総合産業高等学校の体育館を借用し、練習を行いました。男子はSSC（相模原スポーツコミュニティー）のメンバーに実戦練習の相手をして頂き、昨日のスクリメージの課題、反省をしながら進めました。

午後は男女共に神奈川県立麻溝台高等学校バスケットボール部の協力を得て、男子は10分のスクリメージを6本行いました。横田保志選手、堀敏昭選手が体調不良で不参加であり、限られた選手で対応しました。シーソーゲームの展開になりましたが、勝てるゲームを落とす程、悔しいものではありません。まだまだチームとしての完成度が低く、スタッフ、選手ともに反省三昧でした。但し、全てが悪い訳ではなく、選手個人として、チームとして成長を感じる部分も多々あり、新たな発見も見つけました。

女子は10分のゲームを4本と、8分のゲームを4本行い、昨日確認したことが中々コートで表現出来ないジレンマが現れました。然し、何とか確認したことをやってみようとする姿勢が徐々に現れてきましたが、その時はゲーム終了近くで、テンポの速い高校生には中々対応が出来ない部分が多くありました。新メンバーの山田弥佳選手は現役の高校生であるため、豊富な運動量で、高校生に対して全力で戦う姿勢は素晴らしいものがありました。ただ経験が少ないといった部分がコートに現れてしまい、涙を流すことも見られました。

■ 5月5日（祝）－最終日－

最終日ということで限られた時間は午前中だけであり、特に昨日の反省を踏まえ、男子選手はモチベーションを上げて臨んでくるかと思いきや、完全に「やらされている」雰囲気になってしまいました。体力的には相当厳しく、身体を見ればコンディショニング的にも最

悪であることはスタッフも重々承知しています。然しながらゲームと同様に自分たちで立て直すことが出来ず、小嶋（隆）コーチ、藤田コーチ、小嶋（祐）コーチ等に手助けを貰いながら何とかメニューをこなしていました。どのような状況時でも自分の感覚でプレイするのではなく、「流動的に変化する状況を自分の目で見て判断しプレイする」ということが出来る選手は数少なく、キャプテンの斉藤芳樹選手、副キャプテンの鈴木誠選手はトレーニング不足を痛感していました。また、「物事を自発的に捉え積極的に動く」という基本姿勢が中々定着せず、常に誰かのサポートを受けながら行動するという日頃の生活習慣がそのまま反映された形でした。与えられたメニューを終え、後味悪い合宿終了となってしまいました。

女子は3日間の課題を再確認し、ゲームの度に多く課題が見つかり、時間をかけて確認することによって、徐々に「自分たちでもやれるのだ」といった自信が出てくるようになりました。ハイポストからローポスト、ローポストからハイポストへの連絡プレイなど、前回の安城合宿（㈱デンソー安城製作所）で実施した強化合宿で良い点だったプレイが少しずつチーム全体に浸透してきたように思われました。

速攻時の走るタイミングやコース取り、ゾーンディフェンスのポジショニングで「面で捉えて、オフENSより前でポジションする」ことや、ハイポストへの連絡プレイなど、多くのことを確認出来たことが大きな収穫となりました。

最後の全体ミーティングでは各スタッフから厳しい反省が上げられました。「現状のままであれば世界を相手に戦うことは無理」と選手に伝え、日本代表チームという価値観の高い場所でプレイするにあたり、その一員としての「自覚と責任」が感じられず、何かあれば現実逃避するという悪い習慣が身についています。そのような状況から脱却出来なければ世界に出ても厳しい状況が待ちかねており、苦しい思いをするのは自分たちであると。日本代表選手に選考され、第1次強化合宿に参加をするまでどれだけの努力をしてきたかとの問いには誰もが口を閉ざしました。勝負の世界なので当然結果は重視されるが、そこまでのプロセスを選手個人として、またチームとしてどれだけ自信を持つことが出来るかが重要であるとの話に、選手全員が頷いていました。選手個々に次回の合宿までの課題も与えました。奮起して更にステップアップ出来るよう期待すると共にスタッフである我々も最大限にバックアップしたいと思います。